

質問

ほろのべ議会だより

が登壇



菅原 利彦

Q 町づくりの基本姿勢について。
A 公約で掲げた事項は全て達成する様取り組む。
Q 商工業の振興について。
A 商工会等と充分協議する。
Q 深地層研究事業等における経済効果の公表は。
A 町民に何らかの形で報告する。

質問 宮本町政二期目の折り返し三年目に入り、町づくりの基本姿勢事項について、これまでの評価と残任期間でどこまで達成できると考えているか。
町長 大きな財政支出を伴う施設整備は、厳しい財政運営の中、行財政改革を進めながらほぼ目処がついた実績評価については町民に委ねることとした。また、残された任期中で掲げた公約は全て達成する様取り組む

気持でいる。
質問 中でも基幹産業である酪農業の経営安定を図って行く上で、更に町長のリーダーシップが必要であると考えるがどうか。
町長 農協をはじめ関係機関と協議を重ね、その都度解決して行きたい。
質問 町長の公約にある「魅力ある商店街づくりを支援する」と掲げているが、今、日用の衣料品や家庭医薬品を取り扱う定着した店

舗がなく、得に高齢者や弱者の方は非常に不便な生活を送っているが、どう認識し対策を考えているか。
町長 地域が抱える大きな問題と認識している。商工会や事業協同組合に要請し努力したいと考えている。
質問 深地層研究事業が着手され九年目になるが、原子力機構及び関連する事業所を合わせた地域経済は大

きなものがあると思うが、工事関係、町税、職員の消費等々町内における経済効果はどの位か、またこれを町民に公表すべきでないか。
町長 平成十三年から十九年まで七年間で二十八億円の効果があった。引き続き関係機関に対し、地域振興を要請し、適時その効果を確認し、町民に報告していきたい。



驚見 悟

Q 酪農の将来をどう位置付けるのか。
A 農協と協議を進め、多様な形態を考えて行きたい。

質問 農業振興協議会や農協酪農支援対策委員会で検討されている酪農振興策とは何なのか。
町長 町の酪農の現状、経

済の現状、今後の取り組むべき事業等について協議している。
質問 町の担い手育成活動とはどのような活動をして



街頭指導交通安全

いるのか。
町長 酪農の担い手確保を目的に活動しているが、実習生の受け入れ、配偶者対策が主だ。
質問 町の農業労働力の現状と将来予測をどう考えるか。
町長 酪農従事者数については減少していく。
質問 新規就農事業への取り組みはどうか。
町長 農家皆さんのご意見や関係機関との意見を伺いながら、検討していく。
質問 頑張る地方応援プロ